2022 年 2 月 28 日発行

感謝箱献金だより
ガリラヤのほとり 37 号

日々の感謝と祈りの生活に招かれて

日本聖公会首座主教
ルカ武藤謙一

「『眠たいよう、眠たいよう』と寝言を言っていた」と連れ合いに笑われました。眠っているのに『眠たいよう』と夢の中でも愚痴を言っているのかと思うと可笑しくもあり恥ずかしくもあります。自分でも気がついているのですが、ついため息をつくこともあり、人前で無意識に出てしまってハッとすることもあります。不安や心配事で心がいっぱいになっているのでしょうか。よくよく考えてみれば、新しい一日に目覚めることも、無事に一日を終えることができることも感謝以外のなにものでもありません。当り前と思っている小さな一つひとつのことすべて主に感謝です。

「感謝箱献金」の働きは日本聖公会婦人会が長年大切にしてきた尊い働きです。毎日の小さな祈りと感謝が集まり、神様に祝福され用いられ、他の人たちの感謝と祈りへとつながっていくことは本当に嬉しいことです。

感謝箱献金を通して、日々の感謝と祈りの生活に招かれていることに改めて感謝です。

感謝箱献金は 130 年目を迎えました

全国の婦人会員の皆さま、協力者の皆さま、そして教会の皆さまへ。

感謝箱献金と共に歩んだ 130 年間、中断の時期も含め、先輩諸姉の方々はどのような時でも、日々の感謝の祈りの献金を献げることを止めませんでした。それは感謝箱献金を通して、困難な状況にあるお献げ先の方々そして、この活動に参加する婦人たちとつながっていることを大切にしてきたからです。そして、これからも。「感謝箱を置く」、そこから新しい出会いが始まります。

ぜひ、みなさんで続けて参りましょう。

各教区からの お献げ先のご紹介

感謝箱献金は日本聖公会婦人会以外に各教区婦人会からお献げしている団体があります。
（大阪教区、横浜教区は全額日本聖公会婦人会に送ってくださっています）

北関東教区婦人会 「聖バルナバミッションと、リー女史記念事業推進委員会」（草津委員会）

英国聖公会宣教師メアリ・ヘレナ・コンウォール・リー女史（1857-1941）は、群馬県草津において、私財を投じその一生をハンセン病者の救済の為に献げられました。

北関東教区ではその働きを顕彰することを通して、主イエス・キリストの福音をより深く理解し、私達一人々がより信仰を深めていけるように上記委員会の活動を続けてまいりました。

主な活動は、「リーかあさま記念館」の開設、資料の保存・調査・分析・広報活動などです。教区婦人会も感謝箱献金からお献げすることにより、この働きを支援して来ました。

この度、教区では上記委員会を「草津委員会」と名称を改め、引き続き記念館の運営・資料の調査などの活動を続けていくことになっています。私達婦人会も、これからも変わらず出来る限り支援を続けていきたいと考えています。

京都教区婦人会 「子ども食堂・おひさま」

子ども食堂・おひさまは、福井県敦賀市で 2017 年から活動されているボランティア団体です。昨年からは市内の 2 つの子ども食堂と連携し、食品の無料提供や無料配達、また「フードドライブ」という食品や紙おむつなどの提供を募る活動で、子育て家庭やひとり親の支援をされています。コロナ禍で子ども食堂を開くことができなくなっても、別の方法を工夫して、困難の中におられる方々に直接気持ちを届ける活動を続けておられます。

昨年末に送られてきた最新の活動案内のチラシは、コロナ禍でなかなか行うことができなかった子ども食堂を 2 年ぶりに再開するというううれしいお知らせでした。この活動を中心で担っておられるのは、敦賀基督教会の信徒さんで、このお献げ先を推薦されたのは、近隣の福井聖三一教会でした。身の回りに小さくされて支援を必要とする方々がおられないかというアンテナをはってくださっていることも、貴重なお働きだと感じています。

北海道教区婦人会 札幌キリスト教会「金曜ランチ」

新型コロナウィルス禍の中、アルバイトも無くなり経済的に苦難が続いている留学生を支援すべく、札幌キリスト教会では「金曜ランチ」としてお弁当や生活用品をお渡ししています。10 人から始まり今では 60 人の方が利用くださっています。小さな働きと交わりが、国を離れて学ぶ青年達が予期せぬ事態の中でも、北海道で学び生活できるよう願って続けています。

東北教区婦人会　「会津放射能情報センター　放射能から子どものいのちを守る会･会津」

代表:片岡輝美(日本基督教団　若松栄町教会)

2011 年の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故の放射能被害から「どの子のいのちも放射能から守りたい、同じ願いを持つ沢山の方々と歩む」を信条に同年設立されました。　独自に線量測定をし、心と体の健康診断、しゃべり場、講演会、学習会、機関誌の発行を通して、正確な情報を探求・発信し、人知れず不安を抱える方々やこの問題に関心を寄せ支援する方々と共に会を進めています。

片岡さんは「子ども脱被ばく裁判の会」の共同代表も務めています。この裁判は 2014 年に提訴され昨年 3 月の福島地裁の判決を受け、10 月から仙台高裁で控訴審がはじまりました。この裁判を通して原子力法制の間違いを問いただし、子どもの生命と権利が守られる社会を目指しています。

東北教区内で起きた事故として無関心ではいられず、情報センターの働きのために協賛金としてお献げしました。

機関紙の一つ子どもたちの健康と未来を守る情報マガジン

中部教区婦人会　「共働学舎」

1974 年、宮嶋眞一郎氏の首唱のもと、心や体に不自由を抱える人たちと数人の仲間によって小谷村で始められました。「共働」はロマ書 8 章 28 節からとられ、「競争社会ではなく 協力社会を」を信念としています。現在全国 5 箇所の拠点に 130 人のメンバーが暮らしています。信州共働学舎は**立屋共働学舎**と**真木共働学舎**の二ヶ所です。

北アルプスの裾を流れる姫川沿いにある**立屋共働学舎**では、微生物農法で山地を主体とする肥料による有機無農薬の米や野菜作りや、牛、山羊、鶏などの動物飼育、味噌、パン、菓子などの製造、織りや染め、木工など、できる限り手作りの生活をしています。農業体験、手塩塾と名付けた手仕事体験などを受け入れています。

真木共働学舎は立屋から山道を歩いて 1 時間半のところにあり、今も車が通らない不便さをよしとして、夏は少年少女勤労合宿、大学生の教育実習、国際ワークキャンプなどを毎年行っています。茅葺屋根の家に住み、囲炉裏を囲む素朴な生活です。

学舎のメンバーは、自分自身のやることがあれば、遅くても不器用でもいい、問題があれば話し合い、相談し、自分たちで学舎を動かしています。その生活の中で、出来なかったことが出来るようになっていくのが共働学舎の原点です。共働学舎は生きづらい人の生活の場所として始まり、孤立せず生活したいとの願いを持っています。

村の小学生の動物とのふれあいや木工・工芸体験、来訪してくださる人との交流は良い刺激となり、有難く思っています。

すべてのお献げ先をご紹介する事が出来ませんでしたが、機会があればまたご紹介させていただきます。

コア チャプレン から　メッセージ

司祭　アントニオ　出口崇（京都教区　下鴨基督教会）

20 代の頃、海外をぶらぶらしていた時、「クリスチャンは世界共通のパスポートやから、困ったことがあったら教会に行きなさい」と、熱心な(他教派の)クリスチャンである祖母に力強く言われました。

そんなに困っていないのに、とある国で教会に行き、「泊めてくれ」と牧師さんにお願いすると、牧師さんは、弟さんの家に私を連れていき「今日からお前の弟だ」とだけ言い残し、呆然としている弟家族に私を置いて立ち去っていきました。

その国では、その家族や、各地の親戚の家を転々とさせてもらい、貴重な体験をさせてもらいました。

たくさんの方の善意を当たり前のように享受しておきながら、帰国後は数回の手紙のやり取りのみで疎遠になっています。今まで出会った多くの人たちとも、頂いてばかりで何も返していない、義理人情とは程遠い、人として何かが大きく足らないのだと思います。

そんな自分自身が、困りに困って牧師となった今、色々な方と教会を通して出会いますが、私ほど不遜な輩とはまだ出会っていません。もし同じように誰かが訪ねてきた場合、同じことが出来るか？できない理由は山のように出てきそうです。

出来ることしかできないなあ、と思いつつ、その時の出会い、関わりによって起こる心の動き、その間に共におられる方を覚えつつ、一つ一つの出会いを過ごしていきたいと思います。

活動、人と人との出会いが制限されている昨今、お一人お一人の出会い、心の動きの上に、神様の祝福がありますように。

感謝箱献金の祈り

神さま、

今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。私たちにもそのイエスさまの歩みに倣（なら）う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられますように。

また、この人々との交わりを通して共に生きる者とならせてください。主イエス・キリストのみ名によって

アーメン

（2006 年 6 月日本聖公会婦人会第 21(定期)総会後第 2 回常議員会にて制定）

お献げ先の活動報告から

リグリマ・ジャパン　　コロナ禍にあるバングラデシュの活動

支援対象であるバングラデシュのクリスチャンであるガロの人びとは、民族的にも宗教的にもマイノリティです。現在のように新型コロナ感染症が蔓延している状況で、社会的に弱い立場にある人たちはとりわけその影響を受けています。たとえば、都市部への出稼ぎで働く人がかなりの割合で失業しています。またガロの女性には看護師や美容師として働く人が多く、感染症にかかるリスクが高いのですが、仕事を失ったり減給されたりすれば、経済的に困窮することになるのでリスクを抱えながら働いています。このような経済的悪化に加えて、感染症に罹患した場合、患者とその家族は自宅に隔離され、孤立感などの精神的ダメージを味わってきました。このようにもっとも必要とされる時期であるにもかかわらず、支援活動はかなり制限されています。この報告書でも述べてきたように、都市部と農村部の行動制限、日本からバングラデシュへの渡航制限などにより、従来のような活動を縮小せざるをえません。しかし、困難の中でもリグリマのメンバーは助け合って乗り越えようとしています。なかでも農村部の各グループ活動の充実や、グループ・リーダーの成長などがみられます。それらは、過去 18 年間の活動成果ともいえるでしょう。またスマホ、wifi などの IT 技術の普及と利用によって、国内・国外の距離に関する問題はかなり緩和されているようにと思います。　　（リグリマ・ジャパン代表　上澤伸子）

家庭菜園を始め、自給を目指します

小学校を解雇され、仕立て屋さんを開きました

サイディア・フラハ

子どもたちは小学 1 年生の 7 歳から大学生の 22 歳までです。（大学に行っているので写真には写っていない）

子どもたちが食べている食事は肉じゃがとウガリ(とうもろこしの粉を団子状にしたもの)

最近インターネットが使える WIFI ルーターをプロジェクトで購入したので、さっそく施設の子どもたちに使ってもらっています。
今後小学 4、5、6、7 年生にも 1 週に 1 回の予定で使わせることになりました。
先生たちの話では「8 年生は卒業試験の勉強が忙しいので、それどころではない！」とのこと。
YouTube で見ているのはアニメとかポップスミュージックです。

サイディア・フラハでは zoom による オンラインツアーを定期的に開催しています。
その様子は婦人会ホームページからご覧いただけます

NPO 法人ルカ子ども発達支援ルーム 「親子教室すきっぷ」

当法人で実施する発達支援親子教室事業「親子教室すきっぷ」のために感謝箱献金よりお支えをいただきました。「親子教室すきっぷ」は未就園の子が集まる親子教室です。発達に気がかりのあるお子さんも参加することができ、定員５組までの少人数の環境で、集団生活の練習をしたり、生活習慣を身につけたり、コミュニケーションを豊かにするための支援を受けることができます。

2021 年は延べ１４組の親子の利用がありました。

国で制度化されている発達支援制度は、支援を受けるために障がいの診断や「通所受給者証」の取得が必要です。親子教室すきっぷは、無認可事業として運営しており、制度からこぼれ落ちてしまう親子が支援につながることができ、誰１人取り残さない支援を目指しています。

教室は発達支援に携わる専門のスタッフが運営しており、行政からの補助がない状態で運営するためには、人件費等の経費を賄うことは難しく、皆様の尊いお支えで１年間続けてくることができました。（代表者　諸岡研史）

地域支援団体　釜石支援センター　「望」ニュースより

岩手県が発令した県独自の緊急事態宣言も９月 16 日に解除されました。

3 ヶ月以上もお休み期間をとってサロンを再開すると参加者が 2，3 割減ってしまいます。体調を崩された方、なんとなく出不精になってしまう方、亡くなられた方など、気がかりなことも多いですが、いざ再開すると、「あの人こんなにしゃべったっけ？」というぐらいみなさんよく喋ります。サロンが終わってからもお喋りが続てることもよくあります。皆さん誰かとお話したかったり、ストレスがたまっていたりしたんですね。

サロンの活動内容について

①　毎回サロンの終わりに「次は何をしましょうか？」と相談します。コロナ禍でできることは限られていますが、よく出てくるのは脳トレや軽い運動、間違い探しです。

②「お茶っこ（サロン）」とはお茶を飲みながらおしゃべりすることを意味します。話題は基本的には参加者まかせですが、話が途切れた時など、季節の話題や最近のニュースなど、適切な話題を選び、楽しくおしゃべりできるように配慮しています。

③お茶っこ中の話題ですが、昔のことを回想して,例えば学生の頃はどんな歌が好きだったのか、どんなご飯が好きだったのか、昔の街はどんなだったのかなど、そんなことを話題にすると皆さん顔を輝かせて話を始めます。ただ、気をつけないといけないのは、ここが被災地だということです。昔の話の中には失われたものが多数含まれているのです。ですから慎重な配慮が必要です。

運営する側の苦悩、苦心なども交えて報告していただきました。

現在は感染者の急増により、サロンはお休みしていますとのこと。

一日も早く、コロナが収束して、また、お茶っこサロンがみなさんのほっこりする場として再開されますようにお祈りしております。

聖地ろうあ子どもの里　子ども達の施設での日常生活

日曜日から木曜日までが学校　　イスラム圏では金曜日が休日です

朝 6 時ごろに起きて、身支度
朝食の準備が整うまで、少しの間、運動場に行きます。
そして一緒 に食事をします。

プレスクール・プログラム

朝食後、子どもたちはクラスごとに運動場に並び、ヨルダン国歌を歌います。これは、ヨルダンのどの学校でも行われていることです。
耳の聞こえない子どもたちは歌うことが出来ないので、国歌斉唱は、手話で行われます。その後、生徒は天気や学校のルールなど、短いスピーチをすることが出来ます。
これは、多くの人の前で話す方法を学ぶためです。授業が始まる前には、小さなスポーツプログラムがあり、目を覚まして健康な状態で一日を始めることが出来ます。

授業は 12 時まで

昼食と休憩があり、午後 3 時半になると、こどもたちの学校生活は終わり、フルーツと時々お菓子からなるちょっとしたおやつを食べます。その後、宿題をするか、職業訓練で働くか、どちらかのスケジュールが組まれています。幼稚園の子どもたちは、この時間帯に運動場で遊ぶことが出来ます。

午後 6 時
夕食です。その後、外出するか、寮に直行します。

金曜日は休養日
子どもたちは少し長く眠ることが出来ます。スポーツをしたり、映画を見たりします

土曜日は働きます　　職業訓練生は、一日中、様々な分野で指導を受けます。
低学年は朝、休憩所を掃除し昼からまた遊べるようになります。

感謝箱献金の活動を主教会で紹介させていただきました

2 月 9 日、大阪で開かれた主教会のおりに、日本聖公会婦人会の活動である被献日献金と感謝箱献金について、井上惠美子会長とともにお話をする機会をいただきました。

今年の初め、被献日の案内と「感謝箱献金 130 年のあゆみ」のポスターを送りました。感謝箱献金の始まりは 1892 年（明治 25）、小宮珠子さんたちが「祈りと献金で伝道を助ける」目的で始めた「メリーの友の会」です。メリーはマリアのこと。イエスの母マリアに倣い、彼女の友として祈り宣教を支える活動に婦人たちが次々に参加し、やがて、日本聖公会婦人会の結成へ。平和を祈りながらも戦争へと突き進んでいく時代、敗戦からの復興、幾度もの大地震や災害を経験し、感謝箱献金は今年 130 年を迎えました。今もコロナ禍で困難な日々ですが、感謝の祈りと献金の活動、感謝箱献金は続いています。婦人会が無い教区や教会でも、誰でも参加できます。これを機に、日本聖公会の中にこの活動がもっと広がっていくことを願っています。　　感謝箱献金事務局　運営委員長　井田涼子

感謝箱とわたし

聖職候補生　ウイリアムス神学館 2 年
ステパノ　高野　洋

プロフィール
出　　身：長野県長野市
出身教会：小田原聖十字教会
経　　歴：事務機器メーカーに 30 年以上勤めていました
　　早期退職し聖職志願しました。
趣　　味：体を動かすこと。野菜作り。

日頃から様々な形で私たち学ぶ者を気にかけて下さり、また婦人会の多様な働きに感謝致します。

我が家では、妻がこの感謝箱を固定電話の横に置いています。私も毎日のようにこの箱を目にしていましたが、その実質については分かっていませんでした。

以前、会社に勤めていたころ社会貢献を推進する部署にいたことがあります。一度、社内にて収益の一定割合を社会貢献に充てることを提案したことがありました。会社は社会の公器と言われる方がありますが、多くの利害関係から判断は難しく実現には至らなかったことを記憶しています。

ところで、個人であればもう少し自由度があると思います。我が家では年末に翌年の予算を立てます。月約献金は、教会で推奨されているように実収の一定割合を目安に年間の献金額を設定しています。しかしながら、関連施設や団体への必要な寄付は信施によって教会を通じてなされているだろうと考え、それ以外の献金は考えて来ませんでした。改めて家計の予算を見ながら、この予算には隣人への愛があるだろうか、感謝の気持ちがあるだろうかと考えてしまいました。わたしたちの家計だって神さまから預けられた「公のもの」と言えます。自分と関わりの深いところ、手の届き難いところなど、感謝の思いを特別な場所に届ける予算の設定もできるはずなのです。

さて、婦人会の感謝箱献金が捧げられる先は、社会の視点と私たちの思いが交わるところに向けられているように思います。日々の小さな（大きな場合も）感謝を捧げていく感謝箱への献金を通じ、個々の思いを婦人会に託すのも良いのではないでしょうか。

「ガリラヤのほとり」のバックナンバーは、婦人会ホームページからご覧いただけます。

日本聖公会婦人会で検索

スマートホンの QR コード読み取りアプリもご利用いただけます

http://www.nskk.org/fujinkai/

編集後記

世界中でコロナ禍を過ごしています。あきらめることの多い日々が続いています。

それでも、祈ることで自由になれる気がします。思いついたとき、目にしたとき、心に不安が積もった時、「神さま」と呼びかけてお話をします。短くても、ちゃんと文になってなくてもいいのです。心が神さまに届きますように。

暖かくしてお過ごしください。運営委員長 井田涼子

日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒520-2331　滋賀県野洲市小篠原 847-6
井田涼子方
TEL/FAX 077-599-3728（井田宅）
E-mail kansyabako@gmail.com